

活用事例⑥-1

島根県立出雲養護学校
岡田暁子、中澤 淳

■活動した学部・学年：中学部1・2年

■主障害名：肢体不自由、知的障害

■指導教科：自立活動

■学習形態：個別学習

■本の名前：

『おにぎりくん』『カニ ツンツン』

■対象となる子どもたちの実態

- ・対象生徒は2名。
- ・生活経験が少なく、興味の幅が狭い。音楽や光への反応は良い。
- ・自分から人や物に働きかけようとする事が少なかったり、やろうとしても手指の麻痺などによりスムーズに操作することが難しくあきらめてしまったりすることもある。

■学習のねらい

- ・さまざまな内容やジャンルの本に触れ、好きな言葉や本を増やす。
- ・「もっと見たい」「もっと聞きたい」という気持ちを高め、要求を相手に伝えようとする。

■使用した機材

パソコン、プロジェクター、スクリーン、スピーカー

■実際の様子について

【使用中の写真】



【実際の様子】

- ・二人とも音楽や光が好きのため、語りがユニークで、コントラストがはっきりしたものを選書した。
- ・部屋を暗くして、スクリーンが明るくなると、顔を上げて画面に注目していた。
- ・『カニ ツンツン』では、さまざまな声色の読み語りに反応し、笑顔が見られた。
- ・「もう一回する?」と尋ねると、相手に視線を向ける姿が見られた。
- ・ねらいを達成していくために、定期的にこの活動を設けられるようにしていきたい。

■本に対する情報提供など

【本の画面】

- ・コントラストにメリハリがあり、注目しやすかった。
- ・語りの複数の声色がおもしろく、個別学習でも、様々な展開しやすいと

感じた。

- ・語りに加え、効果音や音楽が入ると興味をもつ生徒も増えるのではないか。

【本の情報】

- ・お話が終わるとすぐに本の情報が読み上げられる。生徒によってはそこで学習を終えたいので、間が長くなるとよい。

活用事例⑥-2

島根県立出雲養護学校
駿馬暁子、山本恵美子

■活動した学部・学年：高等部3年

■主障害名：知的障害

■指導教科：国語

■学習形態：一斉視聴

■本の名前とその内容：

日本昔話の旅シリーズ9

『わらしべ長者』（奈良県）

貧しい若者が1本のワラをほかのものと交換したのをはじまりに、次々高価なものと取り換え、ついには長者になるというよく知られた昔話。

■対象となる子どもたちの実態

- ・本学級の子どもたちはお話が好きで、担任による読み聞かせや、定期的に行われるお話会を楽しみにしている。お話会では『へんしんトンネル』（あきやまただし）など、マルチメディアDAISY図書の視聴も行ってきた。
- ・内容理解は、苦手な生徒が多く、短い文章や言葉あそびなどの本を好む傾向がある。
- ・『あっちゃんあがつく・たべものあいうえお』（さいとうしのぶ）や前述の『へんしんトンネル』などは、いっしょに声を出して読んだり、手でリズムを取ったり、自分の感じた楽しさを体で表現しながら、みんなで楽しむことができる。

■学習のねらい

- ・昔話『わらしべ長者』の視聴を通して、物語の世界に浸り、昔話の楽しさに触れる。
- ・物語のあらすじをつかみ、気に入った言葉や場面を見つけようとする。

■使用した機材

プロジェクター、パソコン、スピーカー、カード

■実際の様子について

【使用中の写真】



【実際の様子】

- ・国語の時間に、学級でマルチメディアDAISY図書Ver.BLUEに収録されている『わらしべ長者』（15分）を使用した。
- ・はじめに「どんな昔話を知っているか」を問いかけ、子どもに知っているお話を発表してもらってから視聴した。
- ・大画面に映し出される絵にみんな興味津々。物語の展開に合わせて変化する画面に集中して見入っていた。声優さんの読み語りも心地よく、このお話の世界に浸ることができたようだった。
- ・視聴後に何と何を取り換えたか、出てきた順番に3択クイズを行い、主要場면을再生してあらすじを全員で確かめた。ふだんは使わないので、子どもたちには難しいと思える言葉も出てきたが、3択クイズでは全問答えることのできた子どももあり、最後までしっかり聞くことができ、お話の流れをつかむことができていた。
- ・この時間には、好きな場面を見つけるところまではいかなかったため、本校の図書館にある昔話絵本や出雲に伝わるお話を紹介した。
今後もマルチメディアDAISY図書やこうした本を利用しながら、昔話や民話に親しみ、好きなお話を見つけたり、おもしろい所を話しあうことができるようにしていきたい。

■本に対する情報提供など

【本の情報】

- ・マルチメディアDAISY図書を開くと、どれも語りに工夫があって楽しい。このお話の読み語りは、はんなりとしてお話の世界がよく表現されていた。
- ・さし絵はこのお話が伝わる奈良県の高校生が描いている。丁寧に描かれ、お話の世界をよく表現しているので、アウトプットにこの絵を利用してみんなでストーリーを考え、紙芝居にして演じてみると良いかもしれない。

